

第 2 回勝山市総合行政審議会(第 16 期)議事録

日 時:令和 3 年 7 月 16 日(金)午後 7 時~午後 9 時

場 所:勝山市役所 3 階 第 2、3 会議室

【第 2 回審議会】

1 開会

2 議事

(1) 第 5 次勝山市総合計画の分析について

●未来創造課 谷内

それでは、早速本日の議事に入らせていただきます。

ここからは塚本会長に座長として議事進行をお願いします。それでは塚本会長よろしく願いいたします。

○塚本会長

塚本です。司会を進行させていただきます。

次第をご覧ください。本日の議題は第5次勝山市総合計画についてです。本日事務局にご準備いただきました資料 No.1「第5次勝山市総合計画の分析について」に沿って進めさせていただきます。委員の皆様からは随時ご意見ご提案をお伺いしたいと思います。

では、事務局から資料の説明をお願いしたいと思います。

《資料 No.1、資料 No.2 について説明》

●未来創造課 辻

それでは事務局から、本日の資料 No.1「第5次勝山市総合計画の分析について」を説明させていただきたいと思います。

前回の資料で記載させていただきました市民アンケートの結果の散布図をもとに、特に満足度が低かった政策について、皆さんにご意見を伺いたく、資料を作成させていただきました。

資料の 2 ページ目に散布図を記載しております。

右上の方から反時計回りに第一象限、第二象限、第三象限、第四象限となっております。

ります。以前、議会にお示しした際に、年齢別の回収率が大幅違うので、回収率の差を補正したらどういふ結果になるのかというご意見がございましたので、今回、参考として、年齢補正版を資料 No.2 に記載させていただきました。

こちらの資料ですが、会長の塚本先生のご協力を得まして、回答者の総数、それに占める回答年代の回答者数の比率が、総人口に占めるその年代の人口の比率に一致するように補正をしたものでございます。要するに、全ての年代の回答率が同じだった場合、このような結果になったであろうというものでございます。その右のサンプル図をご覧くださいますと、ピンク色で示したものが補正前、水色で示したものが補正後の数値になります。平均では、満足度で 0.01、「満足」の方に数値が振れ、重要度はほとんど変わりませんでした。補正無しの結果とほとんど大きな変化が見られませんでしたので、今後は、補正なしのデータを中心にお話しさせていただきたいと思ひます。

《議事の進め方について説明》

それでは資料 No.1 の 3 ページ目、散布図の第二象限「重要度は高いが満足度は低い」9 の項目について、それぞれ一つずつこちらからご説明させていただき、その都度ご意見やご提案、所感をいただければと思ひます。

9 の項目ですが、資料に記載のとおり上から順にご説明させていただきたいと思ひます。

《30.道路の除排雪の状況について説明》

4 ページをご覧ください。

まず道路の除排雪の状況につきまして、こちらは前回の資料 No.6 の 23 ページに詳細なことが記載されていますが、その中から、本日参考になる部分だけを抽出させて記載いたしました。

満足度の方は-0.14 ということで、これは順位付けで評価していいのかどうかと少し迷うところなのですが、42 項目中 34 番目の項目になっています。

重要度の方は 1.46 ということで 42 項目中、1 番重要度が高かったということになります。これまで勝山市が、道路の除排雪のために取り組んできたことが重点項目という欄の 1~6 番に記載されています。①道路における除排雪体制の拡充、②消雪施設の整備と維持管理、③豪雪地の除雪体制の確保、④簡易消雪設備の設置支援、⑤流雪溝の整備、⑥小型除雪機械による除雪の支援、こういったものを重点的に取り組んできました。

これまでの取組という欄では、そういった重点項目を中心に、どういったことを行ってきたかということを含括して記載しております。

今後の方向性ということについては、豪雪時に対応した除雪路線の見直しと、県と連携した GPS による位置情報システム、つまり除雪車に GPS をつけて、除雪車が今どこを走っているのかといった情報が分かるシステムを導入して、除雪体制を強化していきたいと考えているところでございます。

表の下にグラフを記載しております。

今回のアンケートが 2 月に実施したということもあり、1 月の大雪の影響がアンケートの結果に影響している部分もあるのではないかと考えており、1 月に降った雪がどういったもので、その時どういった課題があったのかということ、参考までに挙げさせていただきました。

グレーのラインがいわゆる、56 豪雪時の積雪のグラフになっております。水色が平成 30 年、3 年前の積雪のグラフです。赤が今回令和 2 年度の積雪のグラフになっております。

令和 2 年度の雪の特徴として、いわゆる短期間で大量に雪が降ったということがあります。赤枠の囲いに詳細を記載しており、1 月 7 日にそれまでの積雪が 30cm だったものが 1 月 8 日に 55cm、1 月 9 日に 140cm、1 月 10 日に 225cm までと、三日間の累計で 195cm の雪が一気に積み上がったというのが、令和 2 年度の雪の特徴でございました。

これが今までの降雪と比較するとどうだったかという話なのですが、56 豪雪の場合は降り始めの四日間で 185cm の積雪がありました。56 豪雪は 1 回目の降雪以降も降り続けておりますので、全体とすると今年よりもたくさん降っていることにはなるのですが、最初の一時だけで比較しますと、令和 2 年度の方が短期間でより多くの雪が降ったというような状態になっています。

また、記憶に新しい平成 30 年の雪ですが、こちらは五日間で 127cm。あの時もたくさん降ったなというような印象をお持ちだと思いますが、その期間とその時の降雪量だけを見ると、令和 2 年度の方がもっとひどかったということになります。

その右側の表が、道路の除排雪の実績ということで記載しております。

課題といたしますと、県道の除雪を優先したことによりまして、いわゆる市道の生活道路の確保が遅れたということで、今後は県道と市道の区別なく優先順位を決めて 1 日でも早く生活道路の確保をするということが求められています。

実は、県道は県が担当で除雪車を出し、市道は市が除雪車を出すのですが、県道の除雪を請け負ってる業者も市道の除雪を請け負っている業者も、実は同じ業者でして、同じ業者が県から請け負うのか、市から請け負うのかというようなことがあります。今回は県道を優先しましたので、県道の方は綺麗に除雪されたのですが、県道

にたどり着くまでの道がなかなか開かず、市民の方が苦勞されたというようなことがございました。

今後は除雪の作業段階ごとに、県道市道の区別なく優先して除雪する路線の決定を行うことや、GPS の搭載により、どの路線が開いたかというのがリアルタイムでわかるようにすることで、空いた路線になるべく早く接続できるような市道生活路線を優先して開けられるような、そういったことができないかと今考えているところでございます。

以上が、今ありましたとおり、除雪業者が受け持つ県道市道の作業量の平準化や、応援除雪のあり方について、今後検討していく必要があるのではないかと考えているところでございます。

○塚本会長

ありがとうございます。

ただいま説明いただきました、30.道路の除排雪の状況について、皆様方からご意見ご提案をお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

《30.道路の除排雪の状況について質疑応答》

○飯田委員

3点ほどありますが、私は勝山の友達が何人かおり、除雪はすばらしいという話を聞いていたので、満足度が低いというのが、少し意外でした。

1点目は満足度と重要度をアンケートで聞いていますが、この満足度・重要度と施策指標というのが、連動しているのかどうか。

施策指標として、流雪溝の設備延長、簡易消雪路線の整備延長と書いてありますが、この指標というのが、満足度に影響しているのかどうかというのがまず1点。

もう1点が課題欄に県道の除雪を優先したという話がありますが、前回の令和2年度の反省点が生かされているのかどうかということが1点。

そして3点目が、これは費用面といいますか、除雪に関しては職員さんの負担もすごく大きくなるのではないかと思いますので、全ての要望を聞くと職員さんの負担が大きくなりますので、バランスよく考えていく必要があるのではないかと思います。

簡易消雪路線についてですが、延長すればするほど故障した時などに整備しなければいけない、モニタリングしなければいけないというように、費用も多くかかってくると思いますので、そういったところのバランスも非常に重要になっていくのではないかと思います。

●未来創造課 谷内

まずは、満足度と重要度と指標がきちんと連動しているのかというところでございます。

大きい命題が道路の除排雪となっているのですが、この施策指標の流雪溝の整備延長ということは、市民の方々がその家の前の除雪排雪、こういったものがきちんと満足にできるかどうかという部分で、この流雪溝の整備延長があります。

この道路の除排雪の状況という大きい命題と、この施策指標の流雪溝の整備延長が、施策としては少しズレがあると、質問を受けてから気づいたところでございます。この辺りは、大きい重要項目とこの施策指標がうまく連動する形でをとっていきたいと思います。

それと同じく簡易消雪の路線整備延長でございますが、これはまさに生活道路の融雪ということで、大型車両はなかなか狭い路線に入りにくいものですから、川の水などを利用して、ホースで細い道の雪を溶かすという様な取組を平成 26 年度から行っております。令和元年、令和 2 年と同じ数字になっておりますが、平成 26 年からそれぞれ除雪車の入りにくい道の融雪を行いました。これは生活道路の中でこういった簡易消雪が作動してるというところで、かなり有効的だと考えています。

今後は大型車両での除雪や、市の方で各地区に小型除雪車の配備をしていきます。今年度ですが、各公民館毎に小型除雪機を配備する予算を市の方が設けまして、この冬から実施する予定をしております。

各公民館に一台ずつの配備ですので、まだまだ物足りないところはあるかと思いますが、地区の方々に共助という形で、そういった狭い道路、いわゆる生活道路を地区ぐるみでカバーしていただきたいと考えております。

それから、令和 2 年度の雪で、前回の雪の反省点を活かしているかという質問でございました。この辺りになりますと、状況が前回の平成 30 年の雪と、降る速度が全く桁違いの速度で進んだという現状もあり、前回の教訓が活かされてるかと言いますと、十分ではない部分もあったかと思えます。

しかし、こういった降り方も経験しましたので、来年度以降はこういった形での雪にも対応できるように、今年の勝山市の予算でも、その辺りで今年度の雪の対応について取り組んでいくような計画もしております。

またその辺りは議会や予算の絡みもありますので、今年の雪に対応する施策ということでまた正式に決まりましたら、市民の皆様にも報告をしてきたい、実証していきたいと考えております。

●未来創造課 辻

職員の負担などの話は私の方からお話させていただきます。

実際に今年度動員で参加させていただきましたが、本当に大変でした。日付でい

うと1月9日、一番最初に降り始めた時に大雪警報が出ましたので、朝から除雪の対応に当たるということで動員がかかりまして、帰れたのは夜中の12時位でした。帰れないくらい道に雪が積もってしまっていて、それでもやっとの思いで帰ったんですが、何人かは市役所に泊まったかなと思っています。

その中で、街中で流雪溝が詰まったという事例もたくさんありまして、その詰まりの解消でよく職員の方が出ていました。

もうまさにもぐらたたきの様相で、下流で詰まりが解消したら上流が溢れ、上流が解消したらまた下流が溢れるみたいなことがおこり、どうしたものかということで、色々悩んだのですが、結局のところ一番下流で詰まっている何かを抜かないと流れていかなかったもので、それがどこにあるのかというのを探すのにすごい苦労しました。

それ以外には、少し雪が治まってから生活道路の方の拡幅、除雪に職員が当たったのですが、今もありましたが、各公民館に1台ずつ除雪機を配備しましたので、共助の力でも、なんとか生活道路の方を開けられるようにならないかなという風に思っております。

○塚本会長

ありがとうございます。

○飯田委員

施策指標に関しては満足度と関連させられるのであれば、せっかく聞いているのであれば、そのほうが良いかなと思いましたが、全体的に見直していただけたらと思います。

○塚本会長

ありがとうございます。他ございませんでしょうか。

○小泉多委員

私が勤めているところも除雪を引き受けております。今年の大雪は降雪量が多かったこともあり、排雪するところがないため結局除雪もできないということで、それで大変苦勞しているという現場の話を聞きました。

後は雪が一気に降りましたので、屋根雪などを道路に捨てるといような昔ながらのやり方が行われ、排雪したくないと言えないということがあったり、あとやはり町民の方から、まだ回ってこないのかというようなクレームがすごく多くて大変だったというような事をお聞きしています。

雪を捨てられる場所ってなかなかないと思うんですが、市の方でも、通常だったら

排雪場所ではないけれど排雪場所に使っても良いというような土地を借りたりなど、緊急事態にはそういった場所も使わせて貰えると少しでも除雪も早くなるし、それが市民の方の道路の確保につながるのではないかなと思います。

業者の方も現場ではすごく大変な思いをしているということをもっと市民の方に分かって頂けるような、案内といいますか、お知らせも市の方からぜひしていただけたらいいのではないかなということを今年は特に感じました。

●未来創造課 辻

先ほどひとつ言い忘れておまして、飯田委員の方から、勝山市の知り合いに除雪がすばらしいと聞いてるんだというお話がありましたが、実は今回の市民アンケートで勝山市の好き、嫌い、自慢できる事って何ですかと聞いた際に、意外と除雪がすばらしいという意見は多く、それと同じくらいにもっと除雪を頑張ってくれという意見もありました。

除雪がすばらしいと思っていらっしゃる方もたくさんいらっしゃいますし、小泉さんのお勤めの会社も除雪されていますが、勝山市内の業者は、アスファルト削っていくんじゃないかというくらいギリギリまで除雪していただけるので、その辺は誇りに思っているのかなと思っております。

●未来創造課 谷内

今年の雪は本当に多く、除雪車を運転する業者の運転手さんは寝る間もなく、本当に24時間働いてるんじゃないかなと思うようなほどで、実際話を聞くと、だいぶまわっていたように聞いています。こういったことも市民の方に理解してもらいながら、除雪車を動かしているのも機械ではなく人間なので、除雪にも多少時間がかかりますが、ご理解して頂けるようにという形で市長からメッセージを流したような経緯もありました。

雪を排雪する所というのは、川など広いところでないと難しいので、九頭竜川の市が指定する排雪場所に、地区からトラックで運んで持っていく、こういった作業は今後も変わらないのかなと思います。

雪降ろし場については各地区で、もし区長さんを中心に色々ご協力いただけたところがあれば、少しでも道から雪を退けるという意味で、やっていくということはありません。しかし今言いましたように、それをやるにしても、やはり作業をするのは人なので、雪が多いと、全部できるかというとなかなか難しい状況でございます。

その辺りを色々な体制を組みながら、地域の人とどうやって連携していくか、少子高齢化の中、地域の人で全部やれというのも非常に難しいところもあり、自助共助公助の中でどういった割り振りで雪に対応していくかというところが、今本当に大きい課題になっています。

また色々皆さんからもご意見ご協力いただいて対応していきたいと考えています。

○松田委員

勝山の除雪は素晴らしいと聞いていますという話がありました。私はもう 20 年近く毎日福井まで通っていますが、勝山の除雪は本当に素晴らしいです。福井行けば分かると思います。

おそらく勝山でも町中は今年かなりきつかったんだと思います。さっきも言っていましたが、雪捨てるところもないし川は溢れるし。なので根本的には雪捨て場。今は使わなくなった建物とかも増えているので、全部空き地にして雪捨て場をどんどん増やせばいいんじゃないかと思っています。

雪が流雪溝に詰まって流すのが大変だとさきほど話していましたが、今年実験してみました。今年の1月17日、ちょうど雪が降っていた頃に川の水を1L 汲んだんですよ。水温は6℃でした。1L6℃の水って雪を何グラム溶かすと思いますか？溶かしてみると101グラムでした。6℃の水 1L に雪を 101 グラム溶かすと水が0℃に達します。

それ以上は溶けません。そこからの雪は後はもうぶかぶか浮くだけです。

つまり勝山市に1月の真冬に一体何L毎秒流れてるのが分かれば、だいたい側溝で溶かせる雪の量の上限ってわかるんですよ。なので一回そういうものも調べるといいんじゃないかなと思います。溶ける以上の雪を入れれば、あとはもう詰まるだけです。

なのでだいたい、例えば毎秒1トン流れていれば、毎秒1トンの 1/10 の位は溶かせるという計算になるので、あまり雪を入れ過ぎないように、前もって住人に、この川にはこれぐらいの量入れてねっていう、なにかしらの指標を出しておくとか、冬に万遍なく流雪溝に水が流れるように、上流でなにか制御するとか、そういったことはできるんじゃないかなと思います。

総じて勝山の除雪は素晴らしいと思います。

○小泉綾委員

先ほどの雪捨て場の話ですが、奥越支援学校の前の道が私の会社の工場と工場の間も通ってしまっていて、ちょうどその並びにある、もともとうちの工場があった敷地を更地にしたところがあります。旭町の区長様から、ちょっとそこに雪を捨てさせてもらえないかというお話をいただきまして、私も全然お使いくださいということで、近隣の旭町の皆様の、除雪業者様が除雪された雪をトラックで敷地の方に捨てるということをしていただきました。

そのおかげというのもあるのですが、ご近所の方々から、思ったよりも早く道が歩いて本当にありがたうと感謝のお言葉をいただきましたし、この雪を捨てるためには、うちの会社の前の道も開けないと雪捨てに来れないとのことで、私たちも本当に助か

ったと、お互い win-win の、それ以上に私としたらご近所の皆さんに喜んでいただけた、ちょっとでも役に立てたっていうのが本当に良かったなと思います。

勝山の中にもそういう工場や会社の持っている空き地というものもたくさんあると思います。ただ、何も言わずに雪を捨てられるとちょっと困るので、前もって、雪がもしたくさん降った時にはそういう場所として使わせてほしいという風に一言言っていたいていければ、そういう心づもりをしておけますし、そういう会社はたくさんあると思います。

ぜひ市の方にもご検討いただいて、降らなかったら降らないでいいけれど、もしもの時にはそういうものについていうところがあると、みんながより雪を捨てやすくなるんじゃないかなと思います。

●未来創造課 谷内

空き地のことなどは、建設課のほうでも考えていると思いますし、やっていきたいと思えます。松田委員ご指摘の色々な科学的分析みたいなのところも、本当に、なにか新しい技術を取り入れるなどして、できないかということは今考えております。

新潟の方では雪を溶かす電気の装置もあるみたいで、東北辺りではそれが主流になっているみたいです。

その溶かした雪がお湯になるので、それでまた雪を溶かすというような、技術的な研究など、これからはなかなか人の手ではやっていけない時が必ず来ますので、そういう技術の利用を考えていきたいと思っています。

○塚本会長

ありがとうございます。では 30. 道路の除排雪に関してはこのあたりでよろしいでしょうか。では続きまして 14. 出産支援体制の充実について、事務局の方からご説明をお願いしたいと思います。

《14. 出産支援体制の充実について説明》

●未来創造課 辻

それでは 2 番目に入ります。14. 出産支援体制の充実について説明させていただきます。こちらの方は満足度は-0.04 で 42 項目中 24 番目、重要度は 1.24 ということで 42 項目中 5 番目の高さでございました。

重点項目としては出産連携体制の支援と情報発信、産後ケアの対応など出産前後における支援体制の充実。また産婦人科医確保に向けた関係機関への働きかけなどを取り組んできました。今後さらに安心して出産子育てできる環境づくり、そういった必要なニーズを把握して、子育て支援の充実を図っていきたいというふうに考え

ているところでございます。

指標の方は、ニコニコ妊婦奨励金制度について記載しております。社会保険病院と福井大学病院の方が連携しております、社会保険病院で妊婦検診を受けて他の病院で出産すると奨励金を出すような制度になっているのですが、その利用者の数や年間の出生数などを、指標の方にあげさせていただきました。

その下、左側の緑色のグラフが、昭和 55 年から令和 2 年度までの出生数の推移となっております。隣が、おそらく子供を産んでいただけるであろう確率の高い 20 歳から 39 歳の男性と女性の人口はどうなっているんだろうということで、同じく昭和 55 年から、5 歳刻みにはなるんですが、人口の推移を示させていただきました。

こちらは国勢調査の数字を使っておりますので、令和 2 年の人口別の結果が出ておらず空白となっておりますが、平成 27 年まででも男性女性共に半分程度に減っているというような状態となっております。

○塚本会長

ありがとうございます。ただいま説明がありました 14. 出産支援体制の充実について、ご意見、ご提案をいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

《14. 出産支援体制の充実について質疑応答》

○松田委員

序盤に、アンケートの回収率によって差が出ないように回収率という視点から補正をしたと言う話がありましたが、私は 2 週間前にこの表を見たときに、そもそも今後 10 年 20 年後の話をするんだから、年齢補正を入れたらいいんじゃないかと思ったんです。

つまり、今は高齢化がすごいので、それがもし、各年代の人口はこうなるのが理想なんだよみたいなものがあるのであれば、その理想状態で補正をかけるんですよ。それで、こういうことをやっていくと 10 年後 20 年後にっていう話になるんじゃないかなと思ったのですが、そういうのはどうですか。

○塚本会長

そうですね、国際規格など、年齢構成が全然違う国で平均寿命とか分からないと意味がないので、そういう時に日本の場合で言うと、昭和 50 何年かにみんな揃えて、年齢構成が違う地域間の比較をするという手法がとられています。昭和 50 何年という数字を使うのが理想的なのかどうかは分かりませんが。

○松田委員

日本が輝いていた頃のことですよね。その人口分布図、年代分布がひとつの理想的な状態だとして、補正をかけるというやり方はある、ということですね。

○塚本会長

あります。高齢者の意見が強く出て、若者や妊娠出産される年代の意見は影響を及ぼさないということがわかります。

○松田委員

極端なことを言うと、100歳の人が100人いて、10歳の人が1人しかいない町があったとして、ここでアンケートをとったとしてそれで10年後の計画が立てられるかという話なんです。極端に言っていますが、10年後20年後を目指して計画を立てるのであれば、現在の10代20代30代あたりまでの意見を、理想的な人口分布に補正をかけて、つまり20代の人1票は4票にするとか、80代の人0.8票にするとか、補正をかけ、その上でこういう分布図を出して、それでこういう話をしていくというのはどうでしょう。

○塚本会長

それはそんなに難しくはないので昭和50何年補正を1回出してみてもいいと思います。

○松田委員

そもそも勝山市が昭和50何年を目指すのかどうかというところの話にもなりますけどね。

○塚本会長

おっしゃるとおり、年齢が多い所の要望が強く出て年齢が少ないところの要望が強く出ないという違いがどうしても出てきますので、補正は少し考えて1度出してみたいと思います。

他、出産支援体制の充実についてに対して、どうぞ。

○石塚委員

20歳から39歳までの男女人口の推移ということでグラフが出ていますが、多分ここまで出ているなら、結婚された方の人数も当然出ていますよね。

男女人口というよりも子供さんを産む方、一部例外はありますが、ほぼ結婚された形で勝山市内に住んでいる方が、何組いらっしゃるかという数字を追わないと、

出産支援体制はその人数を分母にして考えないと、どの程度の需要があるのかが分かってこないんじゃないかなと思うんです。きっと独身の方の人数も入っていますよね。その人数は省かないと、見えてこないかなというのが一つです。

あと私も取材した経験があるんですが、絶対的なお医者さんの数というのが村部に行くともまず少なくなっています。親戚に保健師さんがいらっしゃるのでは話聞いていたのですが、産婦人科医はさらに大変なので、村部に行けば当然、すごく少ないんです。それはなぜかという、出産する方が少ないし、相手がいないと商売としてもそんなに旨味がないからです。

勝山市でも一時期産科体制がなくなりましたから。そういうこともあるので、勝山市でどのくらいの医療出産人数を取れるのかというデータから逆算して考えないと、まずどんな体制をしているのかってということが見えてこないんじゃないかなと思います。

私もこのようなデータは毎年市の予算発表時に聞かせてもらっているのですが、勝山市や大野市もそうですが、妊婦さんや産後の体制は大都市に比べるとかなり手厚いんです。

それでも結局は、人口減少とかその辺には勝てないので、現在どれくらいの受け入れベースがあって、その中でどこに重点的に予算を配分して支援体制を組めるのかというベースの数字を考えながら、支援策の方向を決めた方がいいのではないかなと思っていましたので、意見としてとりあげていただければと思います。

○松田委員

それでしたら私の家には子供が4人いるんですが、全員病院じゃなくて、産院で産んだんです。福井県って産院があまりなくて、敦賀まで行きました。

産科医がいないのは確かに分かるので、もし産科医がいないのであれば、何とかして助産師さんに勝山に来てもらうという手も一つあると思います。異常でなければ全然産院で産めますし、3Dカメラとかもあるので、事前に異常だと分かれば病院で産めばいいし、異常じゃない場合は産院で産むようにすれば、産科医が足りなくても、比較的まわるのじゃないかなと思います。そんなものも一つ選択肢としていいんじゃないかなと思います。

○富田委員

この話って国全体の問題でもあるのですが、ここで聞きたいのは、この出産体制を充実するために、実際に出産された方々やその家族の方に、意見とかアンケートをとっていらっしゃいますか。そこが一番重要かなと思っています。出産を経験されて何が充実して欲しいか、その問題が書いていないので、そこをまず把握することが重要なのかなと思っています。

○川端委員

私も子供が3人いまして、一番下の子も今月3歳になるんですが、3年前ちょうど勝山に移住してきました、福井県で出産したんですね。でも、実際に出産できるところが勝山にはありませんでした。3人目ということで福井市内の病院まで行ったんですが、本当に途中で赤ちゃんが出ちゃうんじゃないかとすごく怖い思いをしました。

やっぱり充実と考えると、先ほどおっしゃっていましたが、助産師さんに常駐して頂く、一番良いのは勝山病院で出産できる体制を整えてくださることなのですが、それはお医者さんの人員の問題で難しいと聞いています。でもゆくゆくは本当にそのようにしたいので、今勝山病院とも連携をしていらっしゃるのを知っているんですが、助産師さんが常駐して下さったら安心して出産できるんじゃないかと思いました。

ニコニコ妊婦奨励金ですが、これ私は利用できなかったんです。初期から勝山病院に通わないといけないのですが、私は妊娠中期の落ち着いたから来たのでもらえなかったんです。これも、ちょっと惜しいなって思ったので、もうちょっと幅広く受け入れてくださるような制度にしてくださったらいいのじゃないかと思いました。これからの移住者を増やすのであれば特に途中からの通院でも奨励金を出していただけたらと思います。

●未来創造課 谷内

色々な話がある中で移住の話などもありましたが、やはり勝山の強みは子育て支援が充実するという点で、今後もやっていきたいと思っています。色々なこと、助産婦のことなども含めて、子育て支援計画の中に盛り込み、そのような形で進めていきたいというものもあります。

いずれにせよ、今ありましたとおり勝山で産めるようになることが一番良いと思います。しかし勝山病院も常勤のお医者さんがお一人だけなので、そういう体制をなかなか組めないのですが、理想的な部分はそれとして目標をしっかりと持ち、できるところはきちんと、その助産婦の件なども含めてケアしていきたいと思っています。

○太田委員

2点だけありまして、今14番の出産体制の充実と銘打っている部分がありますが、出産と子育ては切り離せない部分ではありつつも、ごっちゃになると体制が全く変わってくると思います。

資料の今後の方向性の部分についても、出産子育てができる環境づくりについての記載があるものの、最終的には結局子育て支援の充実を図るみたいな形でまとめている部分があるので、これを子育て支援に振り切るのか、それとも出産支援に振り切るのか、とまでは言いませんが、その部分は明確に書いた方がいいかなと思います。

いわゆる、出産しやすいまちと謳うのか、子育てしやすいまちと謳うのかで、全く変

わってきます。そのような部分で、産んだ人もその家族もこのまちに呼び込むべきなのか、これから家族をつくる人達を呼び込むべきなのか、という部分に繋がっていくと思いますので、その部分を明確に分けた方がいいかなというのが個人的な意見です。

あともう一つ、そもそも出産支援体制は、特に税金や補助金については、知っている人や調べる人はほぼ皆無だと思います。例えば、移住支援金にしても、引っ越してから知る人が多かったりとか、新しく事業を始めた後でも、初めから申請しとけばよかったのに知らなかったみたいなことが多いと思います。

重点項目の中にも情報関係のことがあります。どこに届けたいのか明確に方向性を決めて考えないと、パンフレットを作りました、おしまい、みたいなことが一番もったいないと思います。お金をかけるべきところにお金を投じるのが一番だと思うので、情報アクションもどこに届けたいのか、ということを含めて具体的にやっていけたらなと思います。

●未来創造課 谷内

ご指摘のとおりズレがあるように感じますので、ここはしっかりと今後の方向性について、書くべきだと思います。子育て支援とごっちゃになっている部分がありますので、担当課と協議して修正をしていきたい、考え方を整えたいと思います。

そして、勝山で課題となっているのが情報発信の部分が非常に薄いということです。今太田さんからご指摘のあったとおり、移住してきた方々が、ここへ来て初めて耳にするというような情報も多いということで、きちんと戦略を持って、どんな方にどういう情報を届けるか、プッシュ型の部分も含めてしっかり戦略を持って行っていくべきだと思います。

今後は色々なやり方を含めて研究していきたいと思っています。第6次総合計画には方向性も含めて、この辺りを明確に謳っていきたいと思っています。

○塚本会長

ありがとうございます。では14はこのあたりでよろしいでしょうか。

続きまして29.身近な生活道路の維持管理について、事務局の方からご説明をお願いしたいと思います。

《29.身近な生活道路の維持管理について説明》

●未来創造課 辻

それでは29.身近な生活道路の維持管理について、これも先ほどの雪の関係もありまして、道路に関する意識が高い結果になったのかなと思っております。

道に関しては区長要望をお聞きしますと、道路の修繕であるとか水道の改良であ

るとか、そういった要望が毎年たくさん出てくるのですが、勝山市の体力に合わせた形で、少しずつですが道路の方を改良させていただいております。

下のグラフのオレンジ色が、道路の維持に関係した費用でございます、青色は除雪に関する費用です。除雪の方は、雪が降るとその分たくさんの費用が出てしまいます。一方で道路の維持に関する費用ですが、人口に関係なく、道路の延長がある限りは維持していく必要がございますので、毎年横並びで費用がかかっているという状態になっております。

○塚本会長

ありがとうございます。29. 身近な生活道路の維持管理について、ご意見、ご提案がございましたら、よろしく願います。

《29. 身近な生活道路の維持管理について質疑応答》

○石塚委員

この身近な生活道路の維持管理の「身近な生活道路」ってどこまでを言うんですか。それがちょっと分からないと…。

●未来創造課 辻

市道をイメージして作っていたのですが、そう言われますと、重点項目の中に中部縦貫自動車道とか国県道も入っていますので、市道だけというわけではないです。

○石塚委員

中部縦貫自動車道は、勝山から大野市まで開通して、再来年度に北陸道と繋がりますから、多分そういった点では、市民の皆さんもすごく利便性を感じるようになったと思います。

しかし市道については「自分の家の前の道路の維持管理」なのか「県道に繋がる道路の方をもう少し使いやすく整理してくれ」という意味なのか、それとも例えば「道路が欠けてるから補修」という意味なのか、どこのことを言っているのかが、よく見えませんでした。

皆さんが不満に思っているところ、満足度が低いと思っているところはどこなのか、統計をもう少し詳しく知りたいなと思います。そうじゃないと、どこに予算を振り分けるのかというのが見えてこないんですね。

家の前の道路が例えばもう少し拡幅してほしいと言うのであれば、それはどの程度の住民の方がそう思っているのか比べながら予算付けもしていかなきゃいけないと思うんですけど、ちょっとそのあたりのアンケートの取り方というか、皆さんの要望を

少し細かく知りたいなと思います。

●未来創造課 谷内

皆さんが多分不満に感じているのは、身近な生活道路ということで、身の回りの生活道路市道とかも含めて、のことかなと思います。

市も予選順位はつけているのですが、毎年市長と語る会で各区からの要望を受けて、ちょっとずつではありますが、道の補修であるとか、アスファルトが空いたところを直したり、そういったことを地道にやっています。なかなかその辺りがまだ不十分に感じているのかなど。ちょっとこのあたりについては、具体的にどこのことを言っているのか、どの程度の不満足度なのか分からない部分があります。

また例えば、自由意見の記載欄もこのアンケートではありますので、その辺りも洗いながら、何が不満なのかなどを把握したいと思います。

あとは実際市も行ってきているのですが、各区長さんに建設課などを通じて聞きながら、まだまだ不満なところがあるんだという実態調査といいますか、どういったところが足りないかという部分なんかも掴んでいるのであれば、リサーチしてみたいと思います。

○山内委員

道路の拡幅とか修繕って意味なのか、それとも歩道とか街灯とかそういう意味なのか、予算もあって敷地の問題もあるので、これ以上の拡幅を言っているというよりも、歩道とか街灯の整備、そういう事を言っているのかなっていう気も半分します。

今いろいろ出ていますが、元のアンケートの設問がどこについて聞いているのか、皆がどこのことを不満と思っているのかを整理しないと、この問題は進まないかなという気はします。

●未来創造課 谷内

一度担当課を通じて分析をしてみたいと思います。

○塚本会長

はい、では29.に関してはよろしいでしょうか。

○飯田委員

インフラ関係の費用は財政を圧迫する大きな要因になるのですが、費用を削減するような取り組み、ICTを利用したりですとか、橋梁のチェックを目視で確認するのは大変で手間がかかるので、ドローンを導入したらすごく効率的にできるようになった

と僕の自治体では聞きました。そういった取組みを行ったり検討していく予定があれば教えていただきたいです。

●未来創造課谷内

橋梁については、今のところ長寿命化などを図りながら、優先順位を持って直していく段取りではあります。ただ橋はものすごくお金がかかりますので、なかなか一度にはできません。

最新技術のドローンを使っているという話も、この間新聞かテレビでもやっていましたし、どこまでが直せる範囲か、または、このぐらいの程度だったら我慢してもらおうといった判断といたしますか、その辺りが大事になってくるかと思っておりますので、優先順位もつけながら進めているような状況です。

また橋梁の傷み具合の、AIなどを活用した検査と言いますか、そういうものについては、どうしても見えない部分の傷み具合というものがやっぱりあるかと思っておりますので、橋を直す優先順位を考える上で、もう少し技術活用もしていきたいと思っております。答えになっているかわかりませんが以上です。

○塚本会長

はい、では他によろしいでしょうか。

よろしいようでしたら次の、3. 若者世代の活動の場の充実、についてお願いしたいと思っております。

《3. 若者世代の活動の場の充実について説明》

●未来創造課 辻

3. 若者世代の活動の場の充実なんですが、実は、5次総合計画の方ではこれといって若者世代の活動の場の充実を図るための政策を打ちませんでした。

しかし今回アンケートを取るにあたって、やはり若者に勝山市内で活動していただきたいということも、市民の中にニーズとしてあるんじゃないかな、ということ想定して設けさせて頂いた質問でございます。

そのため、重点項目や取り組みの方向性などはないのですが、前回、地区の行事などに若者が参加しているかどうかというグラフを示させていただいたとおり、そもそも活動を知らないという方も多かったので、じゃあ勝山市の情報の入手は、何からどれくらいしているのかということも、アンケートをとりましたので、年齢別でクロス集計をさせて頂いたものがその下のグラフでございます。

一番右の緑色の部分が情報を入手していないということで、年齢が下がれば下がるほど情報を入手していないという方が特に多かったという結果です。

また市の広報は、後ほどの話で重要度も高い、満足度はかなり高いという結果で出るのですが、やはり若い世代にはあまり見られていないのかな、どちらかと言うと、10代20代の方はメディアで情報を入手していることが多いのかな、ということがわかりました。説明は以上でございます。

○塚本会長

ありがとうございます。ではまたご意見ご提案をよろしくお願ひしたいと思います。

《3. 若者世代の活動の場の充実について質疑応答》

○小泉綾委員

松文産業の小泉です。私の会社でも結構20代の社員が増えてきて、10代20代、今年も高卒3人、大卒3人の新しいメンバーが入ってくれました。その内大卒の3人は、3人とも市外から移住をしてくれています。さらにその中の一人は大阪から勝山に移住をしてくれました。

私としては、知らない土地に来てくれたということで、彼らをしっかり見守っていかないといけないと思っています。色々な話をするのですけれども、休みの日に、友達がいなくて、勝山で何があるのかわからない、誰かと会ったりしたいんだけど、という声を聞きます。せっかく仕事は楽しくやってくれても、生活のところで孤独を感じるとか、そういうので会社を辞めるだとか、また何か不安を抱えてしまうと、非常に私達も心苦しいところがあります。

今日はご欠席されていますが、織田社長の会社とも色々相談をして、お互いの会社の若手のメンバーで、何か一緒に活動することが出来ないかと、民間は民間で色々考えてはいるのですが、やはり限界もあります。そういう活動をしている事は市にもご理解を頂きたいですし、広がりを持てるような活動、そういうところにも、情報発信も含めて市の方にも色々とお力を頂けたらなと思っておりますのでよろしくお願いします。

○川端委員

若者世代の活動の場というのが、仕事で活躍できる場なのか、私生活で活躍できる場なのか、それとも子供達の遊べる場というか、若者が集まれる場所なのかというのが分からないのですが、私は、若者世代の活動の場の充実を、これは満足度低いうて、実はアンケートで出しました。

というのも、高校生中学生の集まれる場所がなく、皆さんやっぱり福井市内に行かないと遊べないっていうのがあるので、交流の取れるようなゲームセンターひとつもないので、そんなところがあればいいなというのを個人的に思いました。本当に家族で遊びに行くのも往復して行かないといけないので、若者世代が集まれる場所って

というのが必要かなと思いました。

先ほどの移住してきた人達の後のケアっていうのも、私も福井県内で移住支援団体をしているんですが、それとは別に勝山でも、市役所の方と連携して食事会などを移住者対象に開いたりしてるのですが、なかなか周知がないので結局私の所にも名簿を見せてもらえないんですね。

実際どうやって声をかけてるかというと、市の方が直接連絡してくださっています。

実際そういう食事会を行っているということも、広報には載せてもらえてないんです。前の時は軽くだっただので、こういう活動してますというのをオープンにしてもらえれば集まりやすいのかなって思います。

あと今は交流の場っていうのが、LINE でのオープンチャットだったりがありますので、私も開いてるんですが、そういうところがありますよ、そこでみんなで悩みを共有しましょうっていうなことをしようか迷ってるんですが、それも周知されていないので、そのようなところも含めて市の方で協力をしていただけたらいいんじゃないかと思えます。

○太田委員

そもそも箱を作るべきなのかとか色々な部分はあると思うのですが、特にコロナ禍で人が集まる場所をつくるのがそもそも難しくなっているし、フェイストゥフェイスのコミュニケーションがなかなか取りづらくなっていると思います。

他の地域でもよくある悩みや課題というと、若者がいないとか若者がやるのがない。そういうことを考えると、自分が 20 代後半で、他の地域を見ても「人が少ないけれども、若者が集まり始めている地域」にあるような要素が、勝山市には不足しています。

その中の 1 つに、よくあるチャレンジショップ制度みたいな、誰かが手を挙げて新しいことに挑戦することに対する補助、みたいなものがなかったです。特に道の駅の横で 1 区間を 1 日数千円で借りられる、みたいな新しいことを何か始める、チャレンジすることを行政として旗を振れる部分はあるのではないかなと思います。ワーキングスペース、もの作りスペースは作っても誰も来ないと言われますが、そもそもないから来ないだけで、作れば来ると思います。

そういった場所を行政支援で動かしていきつつ、さらにそこにうまく大学を巻き込んだりなど、地域の企業の表現の場だったり、先ほど小泉さんもおっしゃったように、社内の移住社員の方たちが、違う場所でのグループを作る場所みたいなものを提示してあげることで、いつもの仕事がより前向きになったり、市内の人と共有することで新しい科学反応が生まれたりみたいな、余白の場所というのをどんどん活動の場として捉えて、整備を進めることはすごく必要だと思っています。

人の集まる場所というのが、今までだと公民館だったりなので、こういうところから

時代も変わって捉え方も変わって、中高生が集まってくればその子供を見ておきたい主婦が集まったり、よりフラットなスペースが生まれてくると思うので、何か挑戦したいな、披露できる場所が欲しいなと思っている、という部分をどんどん後押しできる部分を一緒に作っていただけたらいいかなと思います。

実際まさに織田さんなどの方が場の整備を進めている部分だと思うので、行政が力を入れすぎるのはどうかということもあるかと思いますが、積極的に空き家情報を共有しますよ、だったりチャレンジする部分にはちょっとした補助出しますよ、みたいな部分でもいいので何か後押ししてもらえるといいんじゃないかな、と考えております。

○松田委員

太田さんの意見はすごくいいと思います。

一昨年に中学校の PTA 会長をやっていたのですが、その時に 2 年生の探求の授業で、勝山市をもっとこうしたいみたいな授業をやったんです。それで、それぞれ 2、3 人のチームに分かれて、今日やりたい事を出し合っていました。私はこんなことをしたい、ああしたいこうしたいと、結構みんな良い意見出てたんですよ。その中で、喫茶店をやりたいという意見がものすごく多かったのが印象に残っていて、今の中学生って喫茶店やりたいんだ、と思いました。

まずは、若者の活動の場の充実という、こういうぼんやりとしたのよりかは、今の若者が、何に興味があるのかを聞いてもいいのかなと思います。

僕だったら、10 代の頃はラジコンが好きで毎日ラジコンして、20 歳の頃にはギターが好きで毎晩片町のバーでギターを弾いて、みたいなことが僕の時代は好きだったんだけど、もう 25 年経っているので、今の若者はやりたいことがまた違うと思うんですよね。

そういうのを聞いて、それで中学生が喫茶店やりたいんだったら、喫茶店やらしてあげたらいいですよ。そんなやりたくもない部活で毎日拘束していたらもったいないです。

勝山の大事な若者の時間が、やりたくもない何かに毎日 2 時間取られるなんて、本当に無駄だと思うので、もう一気に部活を廃止して、喫茶店やりたい子は喫茶店をやる。そういうような、何か場を市が提供できるのであれば提供するみたいなことをやるといいんじゃないかなって今、太田さんの話を聞いて思いました。

●未来創造課 辻

ありがとうございます。喫茶店の話は、私も実はその探究の時間の時にお伺いして色々話をさせていただきましたが、カフェがしたいんだってという意見が本当に多かったです。

今中学生向けのアンケートを実施集計しているのですが、その中で校長先生にア

ンケートさせて下さいとお願いしに行った時に、中学校の現場でも部活動の関係で先生が、働き方改革ではないですけど、時間を取られて忙しいんだとおっしゃられていました。

以前、織田委員からドイツの学校のことを紹介した本を紹介いただきました。

ドイツでは部活動ありません、学校はお昼の1時に終わります、ということが書いてありました。じゃあドイツの部活動ってどんなのって言ったら、地域のスポーツクラブに学校が終わったらそのまま行く、ドイツの部活動はそうなっているということです。

日本でそこまでいきなりできると思ってはいないんですけども、部活動の部分はなるべくその地域のスポーツクラブに入ってもらうようにして、スポーツクラブで部活動が続けたい人は続けて、さっきの探求の時間じゃないですけど、学校の総合の時間で、勝山市に対して興味を持った活動を、実際に地域の人を巻き込んでしてあげる。

校長先生が言うには、大仏の門前町で土日だけでもいいのでカフェの実証店舗を市が後押ししてさせてあげたらいいんじゃないか、みたいなことをおっしゃっていたんですけども、太田さんがおっしゃるよう、にチャレンジしたいな、こうしたいなって思った行動を実現できるような政策が、今後打てるようになっていけたらいいのかなと、私自身感じているところでございます。

○塚本会長

はいありがとうございます。

○石塚委員

NHKの石塚です。

若者世代への情報発信っていうところで、基本的に今の若者はテレビや新聞を見ません。テレビ業界の人間がこんなこと言っちゃまずいと思うけど、NHKの番組なんて、50代以上が基本的に視聴者層です。それはうちらもわかっているんです。

新聞もはっきりで、一人暮らしの方ってほとんど新聞取ってないと思います。でも新聞に載せること自体は悪いことじゃないんです。テレビに載せることが悪いことじゃなくて、それをネットメディアだったりとかTwitterだったりとか拾って短く出して、それを皆さんが拾うっていう形は、今のSNSの情報発信の仕方だったり、若い方達が地域の情報を拾うやり方なんですね。一番見られるやり方です。なので、こういう地域の情報の細かい発信って、一番いいのは携帯で見れる情報の小出しのやり方が私はいいと思ってます。

うちもTwitterでやっているんですけど、若者が活動する場所とかは市が作った時に、新聞に掲載してお願いしますみたいな感じで出してくるんですよ。

私はそれ見て、特に新聞さんですけど、情報を細かくちっちゃく載せたりするんです。それを例えば、市のTwitterだったりとか、市が改めて、外部にこういうやつがあるん

で出してくださいっていうふうに、お金払ってでも行ってもいいですよ。今の若い世代の方が一番触れるメディアに、細かくそういう情報途切れずに出さないと、多分今は見てくれないです。

今の SNS って基本的にリンクしちゃえば、見える情報が出て来るんですよ。それでこんなのあるんだ、って携帯で若い人は情報取りますから。とりあえずその SNS を使って情報を出さないことにはどうしようもないですよ。20 代の子達の目に触れられないんですよ。そういう 20 代 30 代の人達が目に触れやすい情報の出し方を市の方で研究した方が良くと思います。

これは本当に、私がずっとテレビの業界でもう 20 年ぐらいやってますけど、情報の出し方っていうのは、今の若い子達はテレビ新聞をほとんど見ないってことを前提に行った方がいいと思います。それを切にお願いします。

●未来創造課 谷内

おっしゃる通りでございます。本当に私どもも定例記者会見とか新聞社への投げ込みとかやっているのですが、テレビは当日出ますが、速度が遅いんですよ。SNS に比べてものすごく速度が遅い。うちにもその Twitter とかインスタとかの公式のものはあるんですけども、なかなかうちの市の職員が使いこなせていない。

確かにうちの広報の係は一生懸命情報をあげているんですけど、事業は色々なところでやっていて、拾いきれない部分もあるので、そのお祭りの担当者とかが自分であげればいいんです。そういうことを現場でやることで、情報速度も速く、若い人も見てくれる。そういう部分をまずは市の職員が、そういった意識を持ってどんどん情報を上げていく、小見出しでもいいのであげていくといったところが大切かなと思いますので、そこを研究、というよりも職員の意識の問題だと思うので、そこから十分やっていきたいと思っています。

○松田委員

勝山市のアプリとかあればいいですよ。住民票を持ってきて住民登録した人にそのアプリのアカウントをあげたらどうですか。住民だけがもらえるアプリのアカウントを住民登録した人にあげるんですよ。転出届する人はもうそのアカウントを廃止するんですが、細かい市の情報は全部ここにありますよって言って。要はリアルタイム広報みたいなもの渡したってことです。各地区の、例えばゴミの日であるとか、まず転入した時に知りたい情報っていっぱいあるじゃないですか。勝山市ってどうなってんだろうみたいな基本情報もそこにあるし、市からの伝えたい情報も、もうそこに来るみたいなアプリ作ったらどうですかね。

そしたらこんなアンケートも業者にめっちゃ金かけてやらなくてもパッと取れますよ、リアルタイムにこんなことどう思いますかってばってやればもう返事来ますよ、みんなク

リックして。紙なんか見ないと届きません。

○石塚委員

その日の一番人気が高かったコーナーとか、これ見せたいっていう情報を、ニュース番組終わった後にTwitterで1分半とかの動画で載せて出してるんですよ。本当にもう、うちらメディアでさえ、50分テレビ見てくれるなんて思っていないんです。自分から本当にそういうことをやっていかないと、今松田さんの言った、アカウントあげてそこに全部載せて、そこにどんどん情報出して、アンケートもそこでとる、みたいなやり方って、若い世代には絶対有効なんです。

○松田委員

そうすればもう自然に若い意見ばかりが集まってくる、紙でやるから紙を見る人の意見が集まる、それだけのことですよ。紙はもらってももらってないのと同じなんですよ。

とにかく10年後20年後の話を今してるんだから、もっと10年後20年後っぽい議題でいいんじゃないかなと思います。

○塚本会長

ありがとうございます。続きまして31.バスや電車など公共交通機関の利便性についてお願いします。

《31.バスや電車など公共交通機関の利便性について説明》

●未来創造課 辻

バスなどの公共交通機関の利便性なのですが、満足度の方は-0.39の42番目、重要度が16番目でした

バスや電車の利用を増やすとか、そういったことを中心にこれまで取り組んできたのですが、下の円グラフを見ていただくとわかるとおり、どの方もほとんど自家用車を使う、という結果です。前回示したグラフでは、公共交通機関の利用状況ということで、あまり利用されていないという結果を示したのですが、今回は買い物とか通勤とか通院といった目的別で、どれくらい使っているんだろうというようなグラフをここに掲載させていただきました。

自分の想定では、通院なんかは若干公共交通機関が多く出てくるんじゃないかな

と思ってはいたのですが、何のことはなくどこも一緒に、勝山市がいかに車社会であるかということがわかりました。公共交通機関の方もそれほど利便性が良いものではないので、卵が先か鶏が先かみたいな議論になってしまうのですが、本数が少ないで利用されないのか、それとも利用されなかったからどんどん本数が減っていたのか、が形になってるかなと思います。以上です。

○塚本会長

ありがとうございます。ではまた皆さん方からご意見ご提案いただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

○中村委員

31番の話ではないのですが、あの松田さんが言ったこの調子で進めて行くんですかっていう進行の話なんです。

今日入れてあと3回、第5次総合計画の振り返りみたいなことをやって、年明けに第6次総合計画に対しての話をするというのがおおまかな話なんです。第6次総合計画に対してこの審議会が及ぼす影響力といいますか、どの程度の意味合いにあるのかな。変な言い方になって誤解が生じると困るのですが、今の議論みたいなものをずっと積み重ねていって第6次に対しての全体像が浮かび上がるとはちょっと私には思えないんです。

これは個人的な意見なんですけど、例えば私の考えをまず最初に言ってしまうと、前回もらった資料の中に、20年後には高齢化率が42%位だったかな、とにかく働く世代と、65歳以上の方が半々になるわけですね。もうそういう時代が目に見えてる。私も前回言いましたが平泉寺区も同じ状況で、それに対してどうして行くのかと言うね、将来の目的がもう描かれて、結果として出ているのに、それに対してどうアプローチしていくのかっていう方向性を、それをこの審議会には求められていないのかもしれませんが、私はそういうところでのアプローチの仕方がいいんじゃないかなと思います。

○松田委員

もうちょっと前向きな話をした方がいいんじゃないかなって、私も思いながら聞いていました。あとやっぱり人もそうだし市もそうだと思うのですが、不得意なところってのはどうしてもあります。そんなところはもう不得意なりに仕方ないので、もっと得意なところを伸ばせるような会にできないかなと思います。

●未来創造課 谷内

いろいろご意見ございました。

今こうして振り返り、勝山市の現状というのを少し知っていただいて、その後は、中村委員がおっしゃられたように、大きい命題は少子高齢化にありますので、人口も減る、子供も少なくなっている、こういった社会の中で、今までやってきた事業がおそらくこれからは通用しなくなっていくところを、どういうふうを考えていくかということ、第6次の中でしっかりと盛り込んでいきたいという思いがありました。

そういった意味で、今まではこういったことをやってきた、今後はここを伸ばして行く、ダメなところは考えていく、というようなことを、これまでのことを材料にしつつ、ご意見を頂いて、第6次総合計画につなげていきたいという思いで、今、時間をかけてやりたいなと思っています。

今までやってきたことを皆さんの中で何も知らないまま、第6次の考え方を出すというのは、少し危険かなと思いましたので、こういった形でやらしてもらっています。

前に市長もおっしゃっていたのですが、会議の残り回数が限られているわけではないので、とことん議論していいものを作りたいなと思います。またご協力をお願いしたいと思っています。

○塚本会長

では改めまして31に関してご意見ご要望ございましたらお願いします。

○山内委員

確かに卵が先か鶏が先かというように、本数が少ないから乗らない、乗らないから本数が減るんだと思います。

僕は今年56歳になるんですけど、あと15年ぐらいして70歳、いよいよ免許も返そうかなというところにきます。そういう時に、バスじゃもうダメなんだろうなという気はします。

もっと小さい乗り合いバスみたいな感じとか、タクシーみたいな感じとか、そういう協力したような乗り物じゃないと、維持できないのかなって思います。バスみたいな大きいものを走らせても1時間に一本しか走らせられないし、こまめに動こうと思うと維持できないかな、と思います。ただ多分、それすると白タクとかそういう問題もあるだろうし、交通事故の時の保険の問題とかっていうのも、ちょっと問題になるというのも聞いたことがあります。ただニーズとしては、実はそういう風なことを考えてる人がいると僕も聞いてます。

家にある車を使ってもらえばいいので、それで親父を病院まで送ってもらえんかなとか、自分は仕事してるので、車を使ってもらえばいいから誰か近所の人が送り迎えとかしてくれると、ありがたいなとかっていう話は聞いています。その辺りは色々な制約があるんだろうと思うんですけど、できるといいかなって思います。

電車は別として、バスはいきなり充実させるのはお金の問題も色々あって難しいか

なっている気はします。

○川端委員

使ったことがないのですが、コミュニティバスってありますか。

●未来創造課 谷内

ありますね。定員はたしか 20 人程度。

●未来創造課 辻

路線バスですけど、全部まわっているわけじゃなく、一部予約デマンドという形なので、普段の路線で予約が入った時だけ、行けるような形になっています。

○飯田委員

福井市内の人間なんですけど、福井市って結構コミュニティバスが 4000 本ぐらい走っていて、路線バスとまた別な路線で走っています。僕は板垣に住んでいますが、福井駅から板垣まで一周 30 分ぐらいのものがぐるぐるぐるまわっているんです。

だから 30 分に 1 本は回ってきます。4 路線あって福井市の北部、東西南部があるんですけど、鯖江市とか他の市にも実はあるんですよ。近距離の高齢者の方とか学生さんも結構利用されています。

僕の家だと羽水高校の子たちがたくさん、すごく利用されてるみたいな感じで、そういうのはあるとすごくいいのかなと思います。

それが全部カバーできるかわからないのですが、料金も一回 100 円なんて利用しやすいと思います。そういうのがちょっと増えるとすごくいいかな。バスの大きさも全然ちっちゃい小型バスなんですけど、導入するといいのかなって今思いました。

●未来創造課 谷内

よく似た他の地区自治体といいますか、その取り組みも結構研究はしているのですが、例えば地域の中でぐるぐるとバスを回して、地域の公民館、コミュニティセンターがハブ機能となって、路線バスにつないでいく、というようなやり方をしていますし、直接地域の中を door to door で回って病院までおばあちゃんを連れて行くというようなものもあります。それはどこが運営しているかというと、地域の NPO であったり区長会であったり、そういった組織が運営しています。

先ほど山内委員もおっしゃっていましたが、運営の方も法的にはかなり緩和されてきているみたいで、色々自由にやれます。しかも、きちんとその市の計画を立てれば、国からの補助金も出るようなシステムにもなっているようです。

その辺りは市の方も、地域交通計画というものを今年度策定する予定をしていまし

て、その中でも地域のバスのあり方をしっかりと盛り込んで、私個人的には、やっぱり地域の中をまわって使いやすいバスが大切かなと思っています。

話を聞くと、そのコミュニティセンターでのハブ機能というのが、どうしても乗り換えを嫌がるみたいです。お年寄りの方なので、路線バスにつないでバトンタッチはなかなか難しいんじゃないかって話もしているのですが、それなら直接送ってしまえばいいのでは、とも思います。スーパーとか病院とか、主要な場所や時間を決めて、地域が運営するバスっていうのは、今後やっぱり大切になってくるのかなというのは個人的に思っています。

○川端委員

以前サンプラザの方で電動車椅子の試乗体験みたいなものを行っているところを見ました。私がお年寄りだったら、好きな時間に畑ちよつと行きたいとか、買い物行きたいとか感じると思います。町のバスを使うのもいいんですけど、みんな今までは車を使っていたので、やっぱり好きな時に行けるというのは大きいと思います。そういう意味では、電動車椅子というのをもっと普及できれば、今よりも活発に外に出ていきやすくなるんじゃないかなと思います。

バス停のところに電動車椅子を置く場所を作ったりだとか、バス停まで行くのに結構距離があったりしますので、そういうところも電動車椅子をもっと復旧できたら、例えば市がレンタルで安く貸し出しするとかあれば、便利になるんじゃないかなと思いました。

●未来創造課 谷内

ありがとうございます。色々な方法でやっていきたいと考えていますし、その中でどうするのが一番いいのかなど、また色々意見等いただけるとありがたいと思います。

○塚本会長

時間的にはよろしいですか。

●未来創造課 辻

時間となりましたので、一旦ここで切らせていただきます。

今後の進め方についてはまた会長と相談させていただこうかと思っています。

全部をしているとさすがに時間もないので、中村委員や松田委員がおっしゃったように、10年後の計画を立てるにあたって市の強みですとか、そういった未来図みたいなものを、どう構成していくかという話に持っていったらかなと思っています。また会長と相談しながら次回以降の資料の作成をさせていただきたいと思っています。

もう一度資料を精査させていただきまして、事前に資料を送らせていただいた中

で、皆様から事前に意見をいただけるようにして、それをもとに素案作りができたらいかなと思っております。

○松田委員

私は皆さんの意見をたくさん聞いて面白かったなと思います。6割がうんうんと思う事があったのと、4割がえっと思う事があったのが事実で、年齢も違うのでそれぞれ考え方が違いますよね。皆さんの意見を楽しく聞いていた中には、正直僕と考えが違くなっていう意見もありましたが、でもここは批判する場じゃないので、そうかそういう考え方してるのか、そういう人がいらっしゃるのかと思って、今日はこの進め方がいいかどうかは別として、色々な人の話を聞いたのは面白いな、ここに出てきて正直良かったなと思いました。

○塚本会長

ありがとうございます。進め方に関しては事務局と改善点を見つけていきたいと思っています。

(2) 今後の日程について

●未来創造課 辻

それでは次回の審議会ですが、事前にご案内いたしましたとおり、8月5日の木曜日午後7時から開催させていただきたいと思います。その次はちょっと時間が空きますが、9月2日の木曜日午後7時から、どちらも会場は市役所の3階の第2、第3会議室、もしくはオンラインでの参加、ということでお願いしたいと思います。

また資料の方はなるべく早く事前に皆さんの方にお配りできるようにしたいと思いますので、その時はご協力のほど、よろしくお願ひしたいと思います。

3 閉会